

1. 科目名 (単位数)	児童・家庭福祉論 (2単位)	3. 科目番号	SJMP1101 SSMP2102 SCMP2302						
2. 授業担当教員	西村 彩恵								
4. 授業形態	講義、グループディスカッション、演習、プレゼンテーション、学外調査	5. 開講学期	春期 (池袋) 秋期 (池袋・王子)						
6. 履修条件・他科目との関係	児童・家庭福祉論Ⅱを履修予定のものは、履修しておくことが望ましい。								
7. 講義概要	<p>急速に進む少子高齢社会に対応した児童や家庭に対する支援と今後の児童・家庭福祉のあり方について、子ども家庭福祉の原理、理念、権利保障、子ども家庭福祉にかかわる法制度、福祉・保健施策、子ども家庭への援助活動など、基本的なことを体系的に学習する。特に、子ども家庭福祉にかかわる施策分野については、グループでの学習を重視する。また、学外での調査も取り入れ、学生が教室内だけの理解から、地域や社会と関係した視点から問題が把握できるように援助する。併せて、社会福祉士国家試験に対応できる授業内容とする。</p> <p>授業の進め方は、講義を基にグループでのディスカッション、演習等を多く取り入れたものにする。</p>								
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢社会における子どもや家庭に対する支援の必要性を理解する。 ・子ども家庭の福祉の原理・理念・権利保障について理解する。 ・児童福祉の歴史について理解を深める。 ・子ども家庭の福祉にかかわる法制度及び具体的施策について理解する。 ・子ども家庭への相談・援助活動、地域援助活動等について理解を深める。 <p>現在の日本における児童・家庭福祉の課題について理解を深めるとともに、社会に出た時に活用できる発想法や分析方法、スピーチ・プレゼンテーションなど具体的手法、スキルを授業の中で身につける。</p>								
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>1. グループでの討議を含む授業の理解度を確認するため、授業内容を踏まえて考察した学習課題(宿題)を提出する(適宜実施予定)。授業の実施状況や受講者の状況により、学習課題とは別に小テストを実施する可能性がある。</p> <p>2. 授業の学習成果(期末課題)として、レポートを作成・提出する(「子ども家庭福祉専門職の役割と課題について」、「私が考える子ども家庭福祉について」)。</p> <p>上記で示した課題の作成を通して、子ども家庭福祉に対する理解を深め、論理的思考力や概念化能力、自己の見解を口頭や文字で表現する力を培う機会とする。なお、配布プリントを綴じるファイルを用意したうえで、授業中に重要な点や事柄を配布プリントにメモしておき、予習・復習、課題提出の際に各自で活用すること。配布プリントに直接記入しない場合は、授業中に自分のスマートフォンから配布資料を見ることが控え、持参したノート、タブレット等に転記して下さい。</p>								
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 『最新社会福祉士養成講座 3 児童・家庭福祉』 中央法規出版、2021年。</p> <p>【参考書】 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。</p>								
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 児童家庭福祉の全体像を、講義やグループ討議、レポート作成を通して理解し、説明ができるようになる。 2. グループ活動を通じて、思考力を高め、問題発見・問題解決力などの能力を培う。 <p>○評定の方法</p> <p>授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。</p> <table border="0"> <tr> <td>1 授業への積極的参加 (ディスカッション・発表)</td> <td>総合点の30%</td> </tr> <tr> <td>2 日常の学習状況 (小テスト・小レポート・学外調査)</td> <td>総合点の30%</td> </tr> <tr> <td>3 課題レポート</td> <td>総合点の40%</td> </tr> </table>			1 授業への積極的参加 (ディスカッション・発表)	総合点の30%	2 日常の学習状況 (小テスト・小レポート・学外調査)	総合点の30%	3 課題レポート	総合点の40%
1 授業への積極的参加 (ディスカッション・発表)	総合点の30%								
2 日常の学習状況 (小テスト・小レポート・学外調査)	総合点の30%								
3 課題レポート	総合点の40%								
12. 受講生へのメッセージ	<p>近年、少子化や児童虐待、ドメスティック・バイオレンス、子どもの貧困、地域子育て支援の充実などの問題を受け、子どもを健全に育てるための施策の重要性が増している。子ども家庭福祉とは何か、なぜ重要なことかということについて考えていく(映像教材も適宜使用予定)。</p> <p>授業を進めるにあたり、下記の4つの項目に留意すること。また、学内の状況、授業の進捗状況・理解度、受講者数に応じて、授業内容等を変更する場合がある。また、グループディスカッション・発表を適宜行うと同時に、Wordやインターネット等を活用し課題を提出するため、本学の機能を活用しつつ各自の受講環境を出来る限り整備したうえで、真摯に学ぶ姿勢と主体的な参加が求められる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 遅刻・欠席に注意し、やむを得ず欠席する(した)場合は、書面の提出またはメールにより教員に必ず届け出ること。遅延の場合は、遅延証明書を当日又は次回授業までに担当教員に必ず提出する。遅延の累積回数が多い場合は、遅延を認めないことがある。なお、本学の規定を十分に確認のうえ、出席状況の自己管理を徹底すること。 2. レポート、学習課題、補習課題等の課題提出の期限を遵守すること。期限後提出は、減点対象となる。なお、期限後提出が継続する場合や大幅に時間が経過した後に課題を提出した場合は、課題を受理しないことがある。課題の減点及び受理不可により、単位修得に支障が生じる可能性があるため、十分注意して授業に臨むこと。また、相談事がある場合は節度を守りつつ、速やかに授業担当者に相談すること。 3. 真摯に学ぶ姿勢や主体的な参加は前向きに受け止め、授業への貢献度として加味する。よって、地道に且つ根気強く取り組むことが重要となる。但し、教科書・配布資料や筆記用具等を持参しない、私語や居眠り、学習テーマ以外の作業、(グループメンバー及び授業担当教員からの働きかけに回答しないなどの)グループ活動等の授業に関わる事柄での非協力的な姿勢、その他授業を妨げる行為は慎むこと。これら一連の受講態度は、減点対象となる。 								

	4. 「児童・家庭福祉論Ⅱ」の履修を予定している場合は、本科目の教科書を活用する可能性があるため、保管しておくことが望ましい。		
13. オフィスアワー	オフィスアワーは授業内でお知らせしますが、事前にメールでアポイントメントを取って下さい。 メールアドレス：sanishim@ed.tokyo-fukushi.ac.jp		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション：授業の進め方について 子ども家庭福祉とは	事前学習	配布資料を綴じるファイルを用意したうえでシラバスを一読し、講義概要や学習目標等について理解を深める。教科書 pp. 1～22、pp. 187-192 を事前に読み、子ども家庭福祉の重要性について考えておく。
		事後学習	授業内容ふり返り、子ども家庭福祉の重要性を整理し、自分の考えをまとめる。
第2回	子ども家庭福祉の理念	事前学習	教科書 pp. 1～22、pp. 187-192 を事前に読み、子ども家庭福祉の理念や意義について考えておく。
		事後学習	授業内容ふり返り、子ども家庭福祉の理念や意義について要約し、自分の考えをまとめる。
第3回	子ども家庭福祉の歴史の変遷と諸外国の動向	事前学習	教科書 pp. 23～28 を事前に読み、子ども家庭福祉の歴史の変遷と諸外国の動向について考えておく。
		事後学習	授業内容をふり返り、子ども家庭福祉の歴史の変遷と諸外国の動向について要約し、自分の考えをまとめる。
第4回	子どもの人権擁護と児童の権利に関する条約	事前学習	教科書 pp. 1～12、pp. 29～32 を事前に読み、子どもの人権擁護や児童の権利に関する条約について考えておく。
		事後学習	授業内容をふり返り、子どもの人権擁護や児童の権利に関する条約の内容について要約し、自分の考えをまとめる。
第5回	戦後の子ども家庭福祉の展開と子どもの健全育成	事前学習	教科書 pp. 29～34、pp. 96～98 を事前に読み、戦後の子ども家庭福祉の展開、児童厚生施設や放課後児童健全育成事業について調べておく。
		事後学習	授業内容をふり返り、戦後の子ども家庭福祉の展開、児童厚生施設や放課後児童健全育成事業を含む子どもの健全育成について要約し、自分の考えをまとめる。
第6回	子ども・家庭を取り巻く現代社会	事前学習	教科書 pp. 13～18、pp. 29～46 を事前に読み、子ども・家庭を取り巻く現代社会の状況について考えておく。
		事後学習	授業内容をふり返り、子ども・家庭を取り巻く現代社会の状況について、自分の考えをまとめる。
第7回	子ども家庭福祉の法体系、子ども・子育て支援制度の創設	事前学習	教科書 pp. 47～98 を事前に読み、子ども家庭福祉に関わる法体系について調べる。また、国・県・市町村の役割や子ども・子育て支援制度について調べておく。
		事後学習	授業内容をふり返り、実際に児童福祉法や子ども家庭福祉に関わる行政機関、子ども・子育て支援制度について自分の考えをまとめる。
第8回	母子保健	事前学習	教科書 pp. 99～106、pp. 214～217 を事前に読み、母子保健について調べておく。
		事後学習	授業内容をふり返り、母子保健における国の施策や自治体の取り組みについて自分の考えをまとめる。
第9回	多様な保育ニーズへの対応	事前学習	教科書 pp. 107～115、pp. 218～221 を事前に読み、保育制度について調べておく。
		事後学習	授業内容をふり返り、保育制度について要約し、多様な保育ニーズへの対応について、自分の考えをまとめる。

第10回	児童虐待、ドメスティック・バイオレンスの防止	事前学習	教科書 pp. 57～70、pp. 116～129、pp. 138～153、pp. 193～209、pp. 222～229、pp. 234～241 を事前に読み、児童虐待、ドメスティック・バイオレンスの防止について調べておく。
		事後学習	授業内容をふり返り、児童虐待、ドメスティック・バイオレンスの防止について、自分の考えをまとめる。
第11回	社会的養護	事前学習	教科書 pp. 130～137、pp. 230～233、pp. 254～257 を事前に読み、社会的養護の動向や取り組みについて調べておく。
		事後学習	授業内容をふり返り、社会的養護の動向や取り組みを整理し、自分の考えをまとめる。
第12回	少年非行等への対応	事前学習	教科書 pp. 154～175、pp. 242～249 を事前に読み、少年非行等への支援の歴史の動向、関係機関との連携等について考えておく。
		事後学習	授業内容をふり返り、少年非行等への支援の歴史の動向、関係機関との連携等を整理し、少年非行等への対応について、自分の考えをまとめる。
第13回	障がいのある子どもと家族への対応	事前学習	教科書 pp. 176～186、pp. 250～253 を事前に読み、障がいのある子どもと家族への支援体系や支援サービス内容について調べておく。
		事後学習	授業内容をふり返り、障がいのある子どもと家族への支援体系や支援サービス内容を整理し、障がいのある子どもへの対応について、自分の考えをまとめる。
第14回	地域における連携・協働とソーシャルワーク	事前学習	教科書 pp. 194～209 を事前に読み、地域における連携・協働とソーシャルワークについて考えておく。
		事後学習	地域における連携・協働とソーシャルワークについて自分の考えをまとめる。
第15回	全体の総括—少子高齢社会における子ども家庭福祉	事前学習	第1回～第14回までの授業内容のふり返りを行い、期末課題に備える。
		事後学習	第15回を含めた講義内容をふり返り、少子高齢社会における子ども家庭福祉について自分の考えをまとめる。
期末試験			